

# 是非読に みて下さい!!

お話 ①

私もショックを受けました。

ね、お父さん。世界が100人の村だとしたら、そのうち60人くらいの方が住む家も食べるものもなく困っているって聞いたよ。それって、ほんとう？  
ああ、ほんとうだよ。6人が世界全体の富の59パーセントを保有し、その6人ともがアメリカ合衆国国籍、80人が標準以下の居住環境に住み、14人は文字が読めない。50人は栄養失調に苦しんでいる。世界を小さくしてみれば100人の村のこんなに多くの仲間が苦しんでいるんだよ。

お話 ②

ある日、大変なお金持ちが、貧しい経験を自分の息子に経験させようとしてしました。田舎の知人の家に息子を預けて、世の中の人々が実際にどれほど貧しいのかを見せようと思ったのです。田舎での滞在を終え、息子が家に帰ってくると、父親は尋ねました。

「どんなに貧しいか、わかったら？」  
「そうだね。よくわかったよ」と息子は答えました。  
「おまえはどんなことがわかったんだい？」息子は答えました。  
「僕たちの家には籠の中の小鳥が1羽しかいないけど、あの農家には犬と牛とたくさんの小鳥がいたよ」  
「僕たちの家には、庭にプールがあるけど、あの人たちのところには、どこまでも続く川があるんだ」  
「僕たちの庭には夜、まぶしい電灯があるけど、あの人たちのところには夜、満点の星空があるんだね」  
「僕たちは、小さな地面に住んでるけど、あの人たちの住んでいるところは、見えないくらい遠くまで広がっているんだね」  
「僕たちには、僕たちに奉仕する召使いがいるけど、あの人たちは他の人たちのために奉仕しているんだね」  
「僕たちは自分たちの食べ物を買うけど、あの人たちは自分たちの食べ物を育てているんだね」  
「僕たちの家の周りには、僕たちを守るための壁があるけど、あの人たちには守ってくれる友だちがいるんだね」  
息子の返事に、父親は言葉を失いました。そして、息子はこう言いました。  
「お父さん、僕たちがどんなに貧しいかを見せてくれてありがとう」

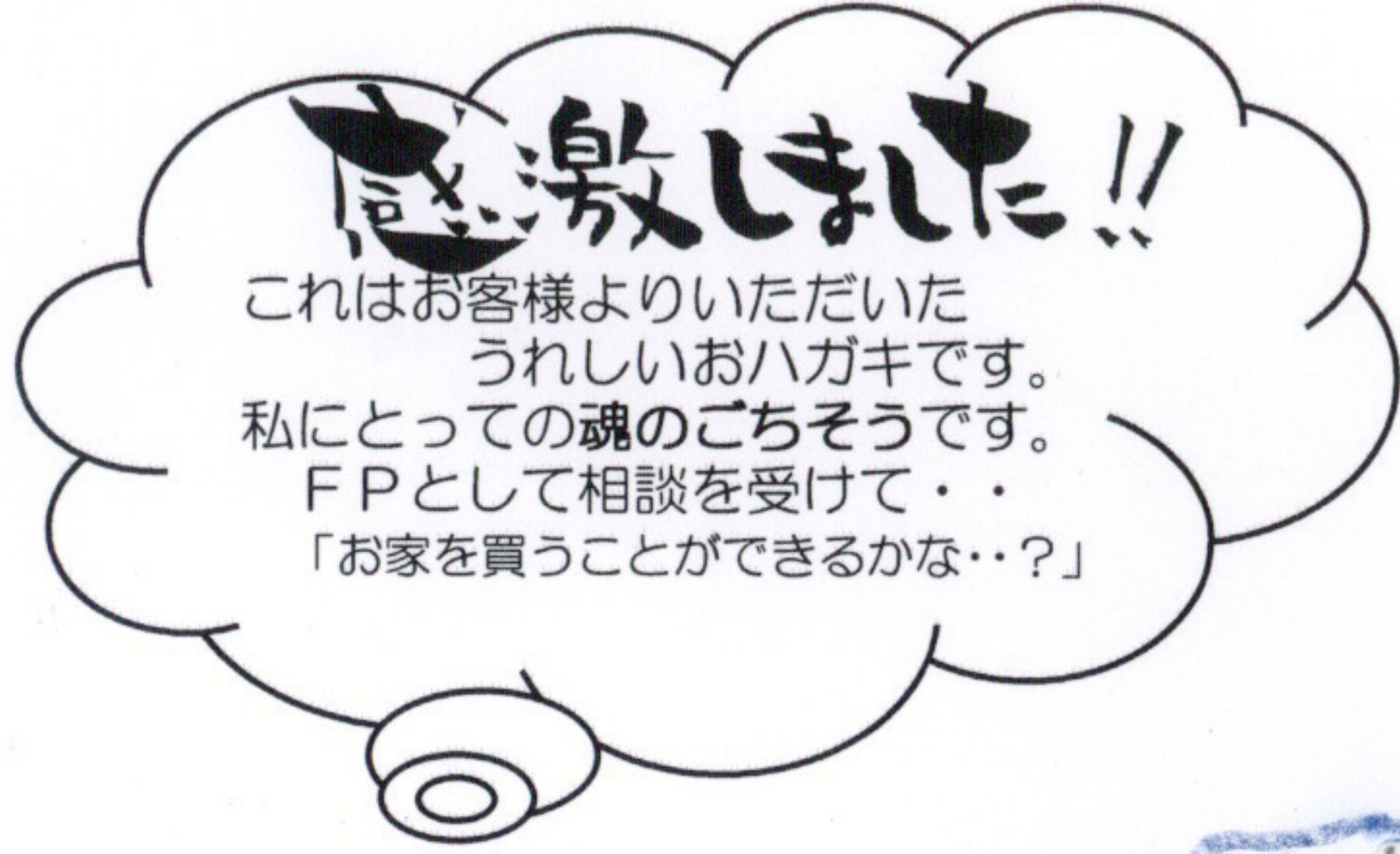
「100人の村は楽園だったより抜粋」

# なんと!!

このたび11月20日付の新聞(北国)に私の広告を載せて頂きました。かなり大きい写真付きです。とっても嬉しく...  
こんな一生涯で最初で最後かも...

有難き幸せです 感謝

ただのおごごごさん  
2002年12月  
鳥越介順



# 感謝しました!!

これはお客様よりいただいた  
うれしいおハガキです。  
私にとっての魂のごちそうです。  
FPとして相談を受けて...  
「お家を買うことができるかな...?」

先日は、お休みなのに、わざわざ来ていただきありがとうございます。家を建ててやっていけるのかなあ...不安でいっぱいだった時、鳥越さんの顔が浮かび、思わず電話してしまいました。まだまだ、未熟なのにマイホームなんて生意気な話ですが、実現できるのなら...と、思っていました。おまけに子供を私立に行かせたいなど、身分に合わない思いが、いっぱい...。鳥越さんに話を聞いてもらい、アドバイスしていただき、大丈夫なのかと不安が解消され、鳥越さんが帰られた後、なんだか久しぶりに夫婦そろって笑顔がもじったような気がします。こうやって大きなハードルを越えながら、家族のきずなが深まってくるといいなあと思います。また今後、どうしても困ってしまい、誰にも頼れない時、不意に、カモ貸して下さい。本当にありがとうございます。寒い日が続きますが、お体に気を付けてお仕事ががんばして下さい。

を反くならなうからのい食あではで昆ち見とに今のはわ量  
も省なりげあげやら動ます糧ふ私し力ちす。博ろ付ミ今年ありもはれがそ  
てす、でと思いてっ変物すが、困るはルみに士我のがのした。小庭にえ「るの積  
ました。我がと、んを、は然れどつ小去息家はた。工。カた。小がもと積  
時をしけだつこ昔界てのも魚年子のも。ル枝す言雪  
もずのはやにえ